

会報

山口七夕会

令和3年(2021年)11月

第8号

題字/書・原野和夫氏 山口七夕会/会報編集委員会：発行



イラスト 古谷 眞之助 さん
(会員No.607)

新会長ご挨拶

コロナ後も「ふるさと山口」の更なる発展を期して！



誕生して 22 年の山口七夕会。この度、八木前会長から会長を引き継がせて頂きました。1993 年、世田谷区民祭りへの参加が起源の山口七夕会は、その後多くの方々のご苦勞され今日に繋がっております。また 2 年前からは会則に「ふるさと山口市の発展に寄与する」という目標が明確化され、この目標に向け首都圏の会員と地元山口の会員相互の交流を従来にも増して深めて参りたいと思います。これまで山口七夕会に関与して下さいました多くの方々のご努力とご支援に改めて御礼申し上げます。

昨年来のコロナ禍で、皆さんが集まって顔を合わせることが少なくなりました。更にデジタル庁の発足に象徴されるように Zoom 会議等の活用が推進され、「会わなくても大丈夫」という雰囲気も強くなってきています。七夕会でも一部にオンライン

交流の要望もありますが、「顔を合わせること」は全く別の感覚を参加者相互が抱くという環境を提供してくれます。今後ともそれを大切にして参りたいと考えています。先日 10 月 9 日の年次総会では、運よく緊急事態宣言が 9 月末に解除され「リアル」で開催できました。体温測定に始まり、アルコール消毒の徹底、マスクの着用と懇親会ではテーブルにアクリルのパーテーション、さらには黙食(?)と制限は多かったものの、予定外のアトラクションを含め「中締め」のタイミングが難しくなる位の盛況でした。改めて顔を合わせることの大切さと感激を実感した次第です。

さて、次への第一歩をどう進めるかについて皆さんのご支援・ご協力をお願い致します。特に「ふるさと山口市」に関する情報の収集・拡大を期待しています。とかく「山口」という言葉の響きには明治維新、長州、萩というイメージが強く、それが全国に広がっています。その結果「ふるさと山口市」の位置や、明治維新における山口市の歴史などはあまり語られません。むしろ萩市と混同した知識に紛れ込んでしまっていることが多い様に思います。

更に歴史を遡れば、大内文化が花開いた山口市。室町時代には中国地方を代表した西の京・山口市＝西京を認識して頂くにはまだまだ道は遠い様です。山口市の観光名所である瑠璃光寺五重塔は室町時代に建立された国宝で、大内文化の最大の遺産です。提灯祭りも起源は室町時代です。山口市のいたる所に残る地名・町名は京都と類似しており西京山口を感じさせるものだと思います。母校の校歌にもある「古き世の雅の街」はまさに山口市を象徴する表現かも知れません。こうした文化の香りが漂う街「ふるさと山口市の発展に寄与する」為に今後とも七夕会を通じて努力して行きたく、会員皆様のご協力とご支援を賜りたいと思います。

すでに 2 年前から「山口七夕ふるさと大使」の委嘱が行われ、新しく逞しい活動が開始されています。この様な活動を通じて「ふるさと山口市の発展に寄与する」ことを期待したいと思います。この勢いを更に増進すべく皆様と協力して参りましょう。

令和 3 年(2021 年)11 月
山口七夕会 会長 秋草史幸

< 目次 >

| | |
|--|---|
| 頁 1 表紙「山口七夕ちょうちんまつり」 | 頁 12 リレーコラム「ふるさとの味めぐり」 岡本達也会員 |
| 頁 2 秋草史幸新会長ご挨拶 | 頁 13 「辞典と共に」 渡邊史信会員 |
| 頁 3 目次 / 新入会員及び法人会員のご紹介 | 頁 14 「コロナ禍巣ごもり中の歳時記」 奥原保会員 |
| 頁 4 市長祝辞 | 頁 15 「毛利氏ゆかりの地で抱く夢」 藤井尊弘会員 |
| 頁 5 議長祝辞 | 頁 16 山口市功労者表彰 |
| 頁 6 山口七夕会会則改訂(令和3年10月9日付) / 令和2年度活動記録 | 頁 17 新任山口七夕ふるさと大使のご紹介 / 山口七夕ふるさと便に関するご報告 |
| 頁 7～8 令和3年度年次総会報告 | 頁 18 新任評議員ご挨拶 |
| 頁 9～10 年次総会時講演会資料 | 頁 19 山口七夕会役員一覧 |
| 頁 11 連載コラム「山口市内の面白名所発掘5」 | 頁 20 表紙の言葉 / 編集後記 / 事務局より |

< 新入会員(個人会員番号・氏名)及び法人会員の皆さん >

R2年度個人会員入会者

| 会員番号 | 氏名 |
|------|--------|
| 781 | 繁永 俊之 |
| 782 | 秋貞 憲治 |
| 783 | 板井川 浩 |
| 784 | 大谷 龍夫 |
| 785 | 益本 圭太郎 |
| 786 | 熊木 真由美 |
| 787 | 岡村 英作 |
| 788 | 行本 徹 |

R3年度個人会員入会者

| 会員番号 | 氏名 |
|------|-------|
| 791 | 岡本 優子 |
| 792 | 西竹 栄 |

法人会員

| | |
|----|-----------------------------|
| 1 | 山口日産自動車株式会社 |
| 2 | 旭水産有限会社 |
| 3 | 株式会社 常盤 |
| 4 | 株式会社 地域情報新聞 |
| 5 | 株式会社 技工団 |
| 6 | 有限会社劇団角笛 |
| 7 | オンガネジャパン株式会社 |
| 8 | 一般社団法人平成の萩往還・中山間地振興をめざす会 |
| 9 | マルシフードサービス株式会社 |
| 10 | 社会福祉法人 青藍会 |
| 11 | 株式会社セブンシステム |
| 12 | 株式会社光華 |
| 13 | 株式会社ベルミューズ |
| 14 | 一般社団法人日本自動車連盟 山口支部(JAF山口支部) |
| 15 | 一般社団法人ノーチラス・デザイン・ワークス |
| 16 | BRAIN SIGNAL株式会社 |
| 17 | 弁護士法人末永法律事務所 |
| 18 | 株式会社アドギルド・ジャパン |
| 19 | 公益社団法人山口被害者支援センター |

令和3年10月末現在の会員数:個人会員 358人、法人会員 19法人

祝辞



山口市長

伊藤 和貴

山口七夕会会報第8号の発行に当たりまして、一言お祝いを申し上げます。

山口七夕会は、郷土を愛し、ふるさと山口市の発展を願う皆様により、平成11年に発足され、以来、22年の長きにわたり、会員相互の交流を深められながら、山口市との架け橋となってこられました。その間、初代会長でございました原野和夫様、そして、平成21年から会長となられました八木重二郎様を始めとする会員の皆様が、ふるさと山口市の発展のために多大なる御尽力をいただいておりますことに、心から敬意を表しますとともに、厚くお礼申し上げます。

そうした中、本年10月9日に開催された総会におきまして、秋草史幸様が新会長に御就任されたところでございます。秋草新会長のもと、伝統ある山口七夕会の活動が今後ますます充実されますよう、本市といたしましても、しっかりと連携して取り組んでまいりたいと考えております。

さて、私は、10月24日に行われた山口市長選挙におきまして、多くの方々の御支援により当選させていただき、平成17年10月の新市発足以降、渡辺前市長が4期16年に渡り進めてこられました本市のまちづくりのバトン

を受け継ぎ、市政運営を担わせていただくこととなりました。日々、その責任の重さを感じ、身の引き締まる思いでございます。

今後は、本市におきましても、新型コロナウイルス感染症により、市民生活や市内経済への影響が続いていますことから、まずは、本市がこれまで行ってまいりました徹底した感染拡大の防止と社会経済活動の回復に向けた全力の取組を、切れ目のない形で実施してまいります。

また、新市発足以降、本市では、県都としての発展に向けたまちづくりとして、農山村を始めとする市内21の地域づくりや新山口駅周辺の小郡都市核づくりのプロジェクトを進めてまいりました。現在は、これらに続く山口都市核づくりとして、新本庁舎の建替え整備を始め、中心商店街活性化の取組や湯田温泉の再生整備を進めておりますなど、一連の都市基盤整備の総仕上げの段階に入っておりますことから、これらの整備を着実に進め、完成させてまいります。

さらに、今後は、本市の持続可能な発展に向け、デジタル化の推進や地域脱炭素の取組といった新たな社会環境変化への対応を進めていく必要がございます。こうしたことから、ふるさと山口市が全ての市民の皆様にとって、生き生きと豊かに暮らせるまちとなりますよう、まずは、人口減少、少子高齢化が進む農山村、中山間地域の活性化に向けて、AIやデジタル、自然再生エネルギーなどの新しい技術を活用したスマートシティの取組を進め、そうした取組を山口市全体に広げてまいりたいと考えております。

こうした取組により、「住んで良かった これからも住み続けたい山口市」と多くの方に思っただき、同時に、山口七夕会の皆様を始め、故郷を離れて暮らしていらっしゃる皆様にも誇りと愛着を感じていただけるふるさとづくりを行ってまいりたいと考えております。

どうか、山口七夕会の役員の皆様、山口七夕ふるさと大使の皆様、会員の皆様方におかれましては、引き続き、本市の力強い応援団として、各方面において、お力添えをいただきますとともに、ふるさと山口市の発展に向けて本市と共に取り組んでいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、山口七夕会の今後ますますの御発展と、会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞



山口市議会議員
伊藤 斉

このたび、山口七夕会の会報第8号が発行されるに当たりまして、心からお祝いを申し上げます。

ふるさと山口を愛し、活動を通して本市の発展に多大なるお力添えをいただいております貴会に深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、今年度の年次総会につきましては幹事の方々を中心とした会員の皆様の御尽力により無事開催され、盛会のうちに終えられたと伺っております。

4月に議長を拝命いたしました私といたしましては、皆様と顔を合わせて語り合えますことを楽しみにしておりましたが、公務の都合で出席がかなわず、非常に残念に感じております。

このたびの年次総会において、第3代会長として秋草会長様が御就任され、新体制がスタートされましたことをお慶び申し上げますとともに、今後も引き続き、本市の心強い応援団として御支援と御協力を賜りますことをお願い申し上げます。また、顧問とされます八木様におかれましては、1

2年間の長きにわたり、会長として山口七夕会と本市の発展のために御尽力賜りましたことに感謝いたしますとともに、今後も、引き続き山口七夕会を盛り上げ、ふるさと山口の応援をしていただけることに対しまして、改めて深くお礼を申し上げます。

昨年からのコロナ禍により、本市におきましても学校の臨時休業や経済活動の落ち込みなど社会経済活動に多大な影響がございました。今年度は、コロナ禍であっても感染防止対策と社会経済活動を両立させながら、総合計画や創生総合戦略で目指すまちづくりを着実に進めていくという気概に溢れた予算が編成され、各事業は着実に進捗いたしております。また、令和4年度は総合計画前期基本計画の最終年度でありますことから、市議会といたしましても、市民の皆様には「これが私のふるさとだ」と誇りを持っていただけるまちづくりを全力で推進いたし、「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口」の実現につなげてまいります。

こうした中、現在、市議会といたしましては、すべての市民の皆様が尊厳を持って共に生きる地域社会の実現を目指し、手話言語条例の制定に向けた取組を進めております。手話が言語であるという認識を深めて、独自の言語である手話への理解促進や普及に向けた施策を推進し、誰もが手話を使用しやすい環境を構築していくことを掲げておりまして、この取組により、市民の皆様が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会の実現に、さらに一歩近づけるものと考えているところです。今後とも、多様化する市民の皆様の御要望や御期待にお応えできますように、常に市民の皆様へ寄り添い、健全で活力ある地方議会の実現を目指してまいります。

新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着きまして、皆様と一堂に会し、ふるさと山口について大いに語り合えますことを切に願いますとともに、今後とも変わらぬ御指導と御助言を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たりまして、会員の皆様におかれましては、時節柄どうぞ御自愛くださいますようお願い申し上げますとともに、山口七夕会が今後も益々御発展されますことを祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

「 令和 3 年 10 月 9 日施行 山口七夕会会則改訂 」

[会則] 寄付金および補助金

第 15 条 本会は、寄付金および補助金を受けることができる。

[改訂後]

第 15 条 本会は、本会の目的に合致する場合においては、寄付又は補助・募金を行う事（以下「寄付等」）又は寄付金および補助金を受けること（以下「寄付金等」）ができる。

2. 寄付等及び寄付金等（以下まとめて「寄付行為」）は、評議員会にて別途定める「寄付行為内規」に基づいて管理及び運用しなければならない。

附 則

平成 11 年 2 月 6 日施行。

平成 22 年 7 月 31 日一部改正。

平成 24 年 7 月 28 日一部改正。

平成 26 年 7 月 26 日一部改正。

令和元年 8 月 3 日一部改正。

令和 2 年 9 月 1 日一部改正。

令和 3 年 10 月 9 日一部改正。

＜会則改訂の経緯＞

令和 3 年度において会員より山口七夕会への寄付のお申し出があり、ご好意を有難く受け入れるとともに、寄付金を有効かつ公正・厳正に運用させていただくため、会則を改訂させていただきました。

副会長 渡邊 史信

令和 2 年度 山口七夕会の主な活動記録

◆(東京)令和 2 年 11 月 14 日(土)秋の交流会

講師:西村弘文会員

演題:「Blue Impulse の抑止力」



◆(東京)令和 3 年 3 月 27 日(土)春の交流会と

花見ウォーク

講師:米川孝宏会員

演題:「日本の DX 最前線」



令和3年度年次総会(報告)

副会長・本部長 梶山 俊哉

コロナ禍のため、二年の時を経て、かつ、7月から延期の末に、令和3年10月9日(土)10時30分より、山口七夕会の年次総会が東京飯田橋のインテリジェントロビー・ルコにて開催された(総会実参加者49名、交流会参加者56名)。



まずは渡辺純忠市長様、伊藤斉市議会議長様、山口市総合政策部ご一同様からの祝電をご披露。奥原保副会長の開会宣言、八木重二郎会長のご挨拶と続き、八木会長を議長に選出して議事に入った。



【総会第一部】

- 令和2年度総会書面決議結果
- 令和2年度事業報告
- 令和2年度決算・監査報告
- 令和3年度会長選任
- 令和3年度評議員選任
- 令和3年度監査役選任

【総会第二部】

- 副会長・本部長・顧問指名
- 本部役員・ふるさと山口本部役員紹介
- 七夕会会則改訂(寄付金関連)
- 令和3年度事業計画・予算説明

【総会第三部】

- 山口市長ご挨拶(ビデオメッセージ)
- 功労者表彰・受賞者挨拶
- 新任「山口七夕ふるさと大使」紹介
- 山口県東京事務所長祝辞

総会は記載の通りの三部構成。渡邊史信副会長による令和2年度総会書面決議結果報告にて第一部がスタートした。今回の年次総会の柱の一つは会長交代。12年務められた八木会長から秋草史幸新会長へ、バトンが渡された。



その後、整斉と議事は進行して第三部へ。冒頭で、16年務められた大役のバトンを渡されることとなった渡辺市長様からのビデオメッセージをご披露した。



メッセージは、七夕会が平成11年から山口市の応援団として市の発展に寄与していることへの謝辞に始まり、12年間会長を務められた八木前会長への謝辞、秋草新会長のもとでの新体制の七夕会への期待、市の近況やまちづくりの状況報告、市ゆかりの選手の東京オリンピックでの活躍報告、七夕会会員からのふるさと納税への謝辞、帰省困難な学生向けに届ける山口七夕ふるさと便施策と市内の事業者起用への謝辞と続き、最後に11月12日をもって4期16年の市長職を勇退される旨のご報告にてメッセージを結ばれた。

渡辺市長様のメッセージは参加者の心に響き、これまでの七夕会へのご支援に一同感謝の念を新たにしました。

続いて、七夕会会長としての山口市への貢献により、八木前会長が功労者表彰を受けられた。八木前会長のご挨拶に、原野元会長や山縣前幹事長の在りし日のお姿が臉に浮かぶ。七夕会が多く先輩方に支えられて発展してきたことを改めて強く感じた。

その後、新任山口七夕ふるさと大使の紹介を行い、七夕会顧問でもいらっしゃる繁永俊之山口県東京事務所長よりご祝辞を賜り、武内衛子副本部長の閉会宣言で年次総会が終了した。



引き続き河瀬真人会員を講師として行われた講演会。演題は「佐山に生まれた長州藩士・石川小五郎(河瀬真孝)の生涯」。ご自身の曾祖父様の、明治維新时期におけるご活躍ぶりを熱く語られた。



講演会終了後は、会場をラウンジに移して交流会を実施。山根和也幹事長の乾杯発声に始まり、原則黙食での交流ではあったが和やかな雰囲気です。



新任山口七夕ふるさと大使挨拶、参加者中最高齢91歳の岡本浩次会員による「老松」の披露、藤井尊弘会員からの「厚木毛利氏プロジェクト」の紹介、関周山口七夕ふるさと大使の曲の披露と会は続き、再度岡本会員にご登壇いただき、次回の七夕会イベントでの再会を誓いつつ中締めを迎えた。



佐山に生まれた長州藩士石川小五郎(河瀬眞孝)の生涯

①はじめに

数年前山口バスツアーで亡き山縣幹事長と知合い七夕会に入会させていただきました。山口ツアーを機に先祖について調べ始め、佐山の長老中村浩美さんから「地区史研究会」で石川小五郎の事績を調べている事を教えて頂きました。家に曾祖父眞孝(小五郎)が海外で公使在任中に要人から来た手紙類があり調べようと思っており相談しました。中村会長や泉地区史会長が熱心に働きかけられ山口市の調査協力を得ました。調査が進み十朋亭維新館で河瀬眞孝展を行う事になり令和元年に開催されました。ご協力と展示会を実施頂きました事、改めて渡辺山口市長と山口市とりわけ交流創造部文化交流課や十朋亭維新館の皆様方に厚く御礼申し上げます。

②石川小五郎の事績

- イ 「回天義挙」と言われる功山寺挙兵で石川小五郎は高杉・伊藤と共に決起した
- ロ 四境戦争: 芸州口戦で遊撃隊参謀として指揮し幕軍から藩境を守った
「河瀬安四郎芸州口戦報告書: 山口文書館所蔵」
- ハ 慶應元年 11 月 広島で幕府訊問使永井尚志の尋問に諸隊代表として応対した
- ニ 慶應2年 12 月洋学を学ぶ為、福原芳山・毛利幾之進と共に英国へ留学
- ホ 帰国後、新政府で英国他全権公使・司法大輔等要職を務めた

③ 生家と生い立ち

石川小五郎は萩藩大組士石川淳介(百石)の三男として周防佐山に生まれ、初め上宇部の福原家郷学菁莪堂で漢学修行、父の死後萩明倫館に入塾。

④ 長州藩士石川小五郎

- * 先鋒隊士に選ばれ加茂神社孝明帝攘夷祈願に供奉
- * 5 月 10 日馬関攘夷戦に参戦⇒惨敗、高杉は奇兵隊を創設
- * 攘夷戦の結果⇒朝廷は褒勅。幕府は詰問使を朝陽丸で送り厳しく詰問⇒過激分子が反発し朝陽丸事件発生⇒奇兵隊士や石川の関与が疑われた。
- * 8 月 18 日の変⇒池田屋事件⇒禁門の変の後、孝明帝の勅令で長州征伐(1次)⇒征長軍は参謀西郷が伏罪交渉3家老の刑死他の条件を萩藩俗論政権は受入れ、幕軍と休戦合意。
禁門の変後俗論派により⇒正義派を粛清・諸隊に解散命令⇒危機切迫の中高杉晋作は九州に潜伏。石川小五郎は母の病を理由に職を辞し河瀬と変名し山口に脱出、諸隊の下に潜伏。その後九州潜伏の高杉が馬関へ帰還し諸隊長に決起を促すが応ぜず。一方河瀬は高橋熊太郎他遊撃隊と決起の方向で纏まっていた。此の頃諸隊は赤根武人の折衝で扶持を確保されており諸隊長らは決起不利を唱えた。この為河瀬・高橋等遊撃隊は孤軍決断の他道は無く高杉晋作と決起を決意した。
- * 元治元年12月15日高杉晋作は長府功山寺で三條公に謁し河瀬、伊藤俊、高橋熊と 80 数名の遊撃・力士隊士と決起し萩藩新地会所から金穀銃砲弾薬を獲得、晋作と安四郎等は有志と共に三田尻海軍局を襲い癸亥丸を獲得する。高杉の決起に保守派政権は7名の尊攘派政務員を斬り諸隊追討を発令。奇兵隊軍監山縣狂介は諸隊追討令を知り高杉と共に戦う事を決意。正義派对俗論派による元治の内乱に突入、その後諸隊・正義派は大田絵堂等の戦に勝利し、中立派家臣団鎮静会の諸隊支持もあり萩藩政は武備恭順派(尊攘正義派)が主導します。

*慶應元年幕府は恭順中の長州藩に疑義を持ち再征討を命令、糺問の為大目付永井尚志を問罪使として広島に派遣、長州側は宍戸備後介と諸隊代表の河瀬・野村・井原が応対した。慶應2年の四境戦争では芸州口で河瀬は遊撃隊副総督として毛利総督を補佐し実質的に指揮を執り藩境を死守。

⑤英国留学

四境戦争後河瀬真孝は福原芳山・毛利幾之進と共に洋学修行を目指し英国へ留学しました。

⑥維新後

明治4年英国留学から帰朝後新政府で工部少輔、侍従長を拝命しその後イタリア・オーストリア全権公使、元老院議員、英国全権公使、司法大輔等を歴任後、終生枢密顧問官を務め79歳で亡くなりました。



河瀬真孝の侍姿



河瀬真孝の晩年の姿



生家の昔



生家の今

山口市内の面白名所発掘 5 「わが国初の空の犠牲者・徳田中尉」

古谷 眞之助 (会員No.607)



【徳田中尉 所沢航空発祥記念館蔵】

筆者はこれまで約20年間、山口県の航空史を調べてきましたが、その中で「わが国初」という言葉を冠して間違いない人物は山口市宮野出身の徳田金一中尉ただ一人だと考えています。ただし、徳田中尉の「わが国初」は、残念ながら手放しで誇れることではありません。むしろ、少し心苦しく悲しいものです。大正2年(1913)3月28日の正午直前、搭乗していたフランス製のブレリオ機が事故に遭遇して、わが国初の空の犠牲者となったからです。そのためでしょう、「わが国初」といっても有名な徳川・日野大尉と違って、ほとんど知られていません。山口市内の面白名所とは言い難いのですが、今回はこの徳田中尉について書いてみたいと思います。

その徳田金一中尉は、明治17年(1884)吉敷郡宮野村下恋路(現・山口市宮野下恋路)の徳田荘次郎の長男として生まれました。後に地元の旧制山口中学に入り、陸上、野球の選手として鳴らしたと言われています。明治38年3月に卒業(11期)し、直ちに陸軍士官候補生となって2年後に陸軍士官学校を卒業します。明治45年(1912)5月には多数の応募者の中から選ばれて操縦将校となり、同年6月に黎明期の飛行隊である「臨時軍用気球研究会」に派遣されました。当時、まず気球が導入され、続いて導入された飛行機も、決して軍の主流ではありえませんでした。しかし、航空機は当時の最先端をゆくものであり、若い士官達に大いにアピールしたのは間違いないでしょう。選ばれた第1期操縦練習生は、徳田中尉の他に岡樽之助、木村鈴四郎中尉、そして坂元守吉、武田次郎少尉の合計わずか5名でした。

徳田中尉らは7月から本格的な飛行訓練に入りました。教官を務めたのは、我が国初のパイロット徳川大尉とフランス帰りで豊富な飛行経験を持つ男爵・滋野清武(元奇兵隊士で、後に陸軍中将となる滋野清彦の息子)でした。気象観測の後、気流の静かな早朝6時から飛行訓練が開始されました。何事も初めてのことであり、気象の制約、低い機体の稼働率、飛行時間の短さという悪条件に耐え、わ

ずか3か月後の10月に入ると、早くも全員が単独飛行を許されたそうですから飛行適性に優れていたのでしょう。

事故当日、東京青山練兵場では航空思想普及のための飛行機及び飛行船のデモンストレーションが実施されたのですが、これには軍や政府高官・議員だけでなく、多数の一般市民も参加し、大変な関心呼びました。このイベントには、当時唯一の正式飛行場だった所沢から会式2号、3号複葉機、ブレリオ式単葉機の合計3機が派遣され、事故は青山からの帰路に発生しました。徳田、木村中尉が搭乗したブレリオ機は11時36分に青山練兵場を離陸し、約25km離れた所沢飛行場を目指しました。順調に飛行を続け、高度約300m、飛行場まであと1kmというところでブレリオ機は突然の突風に襲われ、そのため左翼が破損して、急激に左回転を始め、機体はバラバラになって落下したのです。午前11時59分のことでした。事故原因は



【事故現場の様子 所沢航空発祥記念館蔵】

エンジンが不調だった上に翼を支える張線に不具合があったためと後に報告されています。わが国初の事故であり、3日後に青山斎場で大々的な葬儀が営まれました。首相、各大臣、軍上層部、各国大使、徳川大尉以下臨時軍用気球研究会のメンバーらが参列し、多くの市民も集まって会場は立錫の余地もなかったと伝えられています。4月14日には、郷里宮野の古刹・清水寺においても父徳田荘次郎を喪主として追弔法会が行われました。事故当時中尉は29歳で、家族は菊枝夫人22歳、長女淑子5歳、長男晃一2歳の3人でした。その夫人は事故を飛行場官舎から目撃していたと翌々の東京朝日新聞が伝えています。同紙には与謝野晶子による追悼歌15首も掲載され、その一つは次のようなものでした。「青空を名残のものと大らかに見給へ親も悲しき妻も」

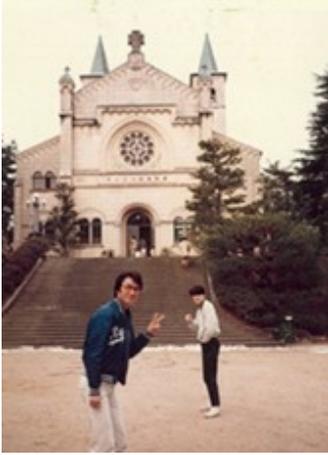
軍人のみならず多くの国民からも弔慰金が集まりました。後に初代航空本部長を務めた宇部市出身の陸軍大将・井上幾太郎が遺児・晃一の後見人となり、晃一は長じて東京帝国大学航空科を卒業して、戦前は川西航空機で「二式大艇」「紫電改」の設計に関わり、戦後は現在岩国基地に配備されている新明和工業の救難飛行艇US-2の設計にも主導的立場で尽力しました。その意味で、父の無念をその息子がしっかり晴らしたと言えるのではないのでしょうか。

ふるさとの味めぐり「天婦羅さわらぎ」「小郡駅ホームの肉うどん」

本部・副本部長 岡本 達也(会員No.670)

山口七夕会通信第 37 号（令和 3 年 1 月発行）から始まった「ふるさとの味めぐり」のバトンですが、今回は私からの山口市のソールフードの思い出です。

私はのどかな山口市南部の鑄銭司で育ち、高校は四辻駅から小郡駅経由の山口線で汽車通学していました。高校には 1978 年（昭和 53 年）から 3 年間通い、部活に入っていなかった私は、やることもなく、サビエル教会の広場で同級生と野球をやったり楽しい時間を過ごしていました。左の写真は学生時代のサビエル教会前の一枚です。



(写真① 学生時代の私(手前))

当然、体を動かすと無性に腹が空くものです。そんな時は、必ずと言っていいぐらい、米屋町商店街にある高校の同級生（新開君）の両親がやっている天婦羅「さわらぎ」に行っていました。高校生ですので正面ののれんからは入れず、裏の出入口から休憩部屋に行って、揚げたての天婦羅丼をいただいていた。食べ盛りでもあり、大盛りであったと記憶しています。本当に美味しく感謝に尽きません。この写真は、93 年（平成 5 年）当時の「さわらぎ」です。高校当時の店構えと同じで、山口祇園祭当日のお店の前です。写真左側の赤ん坊を抱えているのが今は亡き親父さん、抱かれている赤ん坊が新開君の息子で、今は東京にいるそうです。



(写真② 天婦羅「さわらぎ」)

今でも帰省した際には「さわらぎ」に顔を出すようにしていますが、何歳になっても忘れられない天婦羅丼の味です。



(写真③ 天婦羅丼)

また、途中乗換駅の小郡駅は下校時の格好の腹ごしらえの場所でもありました。食べ盛り的高校生の腹を満たしてくれたのが小郡駅ホームの「肉うどん」であり、汽車通学生の温かい味方でありました。今でも防府駅、徳山駅にはホーム立ち食いが残っていますが、残念ながら小郡駅のホーム立ち食いは姿を消しています。出汁のいい香りが漂ってきて、乗り換え時に食わずにはいられない日々でありました。薄水色のプラスチック容器で、同級生（写真①の伊藤君）とは、よく早食い競争をしたものです。今思えば、ゆっくり味わうべきところを、当時の高校生は味でなく、スピードを競っていたとは呆れたものです。当時の小郡駅ホーム駅うどんの写真です。山口市小郡文化資料館から 1978 年当時の写真を提供いただきました。この場を借り、お礼申し上げます。



(写真④ 小郡駅ホーム駅うどん(1978 年当時))

私の学生時代の故郷の思い出の味は、「さわらぎ」の天婦羅丼と「小郡駅ホーム肉うどん」でありました。今でも忘れることのできないオアシスであります。次は、会員番号 601 の久家菊美様に襷を繫ぎます。宜しくお願いします。

「 辞典と共に 」

副会長・会長代行 渡邊 史信 (会員No.364)

私にはとても大事にしている辞書がある。写真の「角川 国語辞典 / 久松潜一・佐藤謙三編」である。昭和44年(1969年)12月1日初版で当時の定価1000円とある。私は小郡小学校入学だが美祢市立於福小学校の卒業で、卒業当時の校長平川隆士先生から頂戴したものである。頂戴した当時私は山大附中3年で山口高校への入学が決まった時で、突然先生が新刊のこの辞書を持って自宅に来られた。小学校卒業後も私の事を気にかけて戴いた事に驚くと共に、とても嬉しく爾来51年間、山口⇒大阪⇒宇部⇒東京/千葉⇒ドイツ⇒スペイン⇒千葉⇒スペイン⇒東京と身边から離さずずっと大切に使ってきた。



未だに表装・箱共にしっかりしている。巻末の付録項目も充実しており、アクセント・旧国名・季語・月の異名・数量呼称一覧・文学史年表等重用している。勿論収録の言葉は時代と共に変遷するわけで、些か古いが私にとっては問題ない。別の辞書やネット検索で確認もできる。今後20年は大事に使っていきたい。平川先生、ありがとうございます。

編者の国文学の泰斗久松潜一先生は1894年生まれで1976年に81歳で亡くなられている。従い辞書は東大名誉教授75歳頃の監修と思われる。

佐藤謙三先生は1910年生まれで1975年に65歳で國學院大學学長在任中に亡くなられている。辞書は60歳前後の文学部長在任時の監修と思われる。

巻頭言の編者のことばに「…私どもが、初版(昭和36年)以来終始一貫目ざしてきたことは、これからの日本を背負って立つ中学生・高校生、あるいは社会で働いている若い人々の学習活動や日常

のことばの生活に、ほんとうに役立つような国語辞典を作ろうということであった。…」とある。あらためて先生方に対して、まことに恥ずかしい。



もう一冊紹介すると、「旺文社 漢和辞典 / 阿部吉雄編」昭和42年(1967年)3月15日重版で800円である。これは中1の時に求めたもので、同じく54年間重宝している。

中国哲学者の阿部吉雄先生は1905年生まれで1978年に東大名誉教授の時73歳で亡くなられている。辞典は東大教授時代末期に編纂されたものと思われる。

蛇足ながら、ドイツ・スペイン両国に駐在していた事もあり、我が家には各種多彩な辞書がある。読者ご賢察ながら殆ど使わない珍しいのはLATIN語⇔SPANISH語辞典だ。例えば人口に膾炙されているカエサルの「VENI, VIDI, VICI (来た、見た、勝った)」や、お互い補完的対語でもある「CARPE DIEM(今を大切に)」と「MEMENTO MORI(死はいつもそこにある)」等興味のある言葉は分からないままに捜しています。ちなみに「VENI, VIDI, VICI」はフィリップモーリス社の煙草MARLBOROのパッケージの紋章の中にも密かに隠れています。(肉眼では見えませんので、ご興味ある方は天眼鏡でご確認ください。)



「 コロナ禍巣ごもり中の歳時記 」

副会長 奥原 保(会員No.330)

(はじめに) コロナ禍で外出もままならず、巣ごもり真ただ中、朝晩のウォーキング時に感じたこと、徒然なるままに読んだ本の読後感等、季節の移り変わりとともに歳時記としてまとめました。

(春) コロナ禍で入社した新入社員は大変な試練を経験すると思うが、いつの世も変わらない仕事をするうえでの心構えを伝えていきたい。「五欲を大事に～強欲とは異なる」
①食欲・感謝の気持ち②財欲・自分への投資と社会への還元③色欲・大いに恋愛し子孫を残す④名誉欲・出世して次の世代に継承する⑤睡眠欲・自分だけの身体ではなく、健康に気を付ける。人生の目的と生きがいを見出し、おもしろく働く。

空海は「般若心経秘鍵」で、真言宗だけが密教でその他は顕教・大日如来が身を変えて出現されたと説いていた。また、仏門に入る前の 24 歳時に「三教指帰」を書き、仏教の教えが儒教・道教・仏教の三教の中で最善であることが示され、弁証法的な手法によって、仏教が論理的に称揚されている。日本における最初の比較思想論であり、思想の主体的実存的な選択を展開した壮大な著作で、弘法大師空海が現代の世の中に新鮮な風を吹き込んでいる。
(夏) 北原敏直詩集「星への手紙」を一気に読み終え大変感動し、自分自身の生き方を更に見つめ直さなければならぬという思いを深めた。自然の章→人間の章→愛の章→祈りの章と流れていくほぼしる一語一語、私が社会人になりたての頃、15 年という短い生涯を終えられ、世の中に大切なものを残された。無明と煩惱に流されつつある方達に読んでいただきたい。

塩野七生著「ローマから日本が見える」は企業の経営幹部候補の育成に大変役立つ。指導者の素質などのテーマでよく取り上げられるのは、決断力・実行力・判断力などといったもの。上に立とうとする以上この三つ資質は当然持ち合わせているべきこと。塩野さんのいわれる指導者に求められる資質①知力②説得力③肉体上の耐久力④自己制御の能力⑤持続する意志。

現在顧問として勤務している ICS 社では、将来の幹部候補の育成として、1 ヶ月に 1 回半日かけて WEB で研修を行っている。テーマの一つに、経営戦略を構築できるのは仕事のスキルだけでなくセンスが必要。スキルの取得は会社のプログラムに用意されているが、センスは「育てる」ことができない、本人がセンスのある人に「育つ」しかないということ学んでもらった。若い世代と共に学ぶことを楽しみにしている。

(秋) 釈尊と同時代の中国春秋時代、老子 33 章に「汝自身を知れ」が書かれていた。それから 5 百年経って中国に仏教が西域から入り、さらに 5 百年経って達磨太子により

禅宗が開かれた。老子・荘子の思想と交わりながら中国禅が唐代に開花され、老子が示した言葉・思想が禅宗の中にも受け入れられたとのこと。例えば、無・無為・玄之又玄・衆妙之門・知足・無名有名・和光同塵・等々。老子は「上善は水の如し」と説かれ、古代の賢人から学ぶことが多い。

心理学では、ストレスは人間が生きていく上で大切な要因であると云われている。但しストレスには「良いストレス」「悪いストレス」が存在しているとのこと。自らの気持ちとコントロールの仕方、ストレスの質を決めるといっても過言ではない。良いストレスは自己成長をしていく手段に変わるが、悪いストレスは心身ともに悪い症状が表れてくる。



(冬) 宇宙物理学者の大栗博士と仏教学者の横山立大名誉教授が「唯識と科学」についてテレビで対談されていた。大栗博士は「幸せを感じるのは機能を発揮するとき」と説明され、横山教授は「人を幸せにすることができる時、正法眼蔵の全機に通じる」と解説されていた。ある研究によると、記憶力は「いつ、どこで、何をしたか」という記憶(エピソード記憶)は 40 歳代から低下する一方、知識や概念の記憶(意味記憶)は 80 歳代までほとんど低下しないとのこと。

「人類の起源、宗教の誕生」を読み終え、山極先生(京大元総長)の云われるグローバルな人材の指標を次のように理解した。①自己判断が可能②アイデンティティを持つ③危機判断ができる④他者を感動させる。これらは生の身体行動をしないとできない。知力・気力・体力をできる限り維持して次の世代に何かを残していければ幸いである。(おわりに) 森に囲まれた公園の中を散策中、ベンチに腰かけて瞑想にふけていると、小鳥のさえずり、虫の鳴き声、鯉の跳ねる音、風のそよぐ音が心地よく聞こえてきます。つくづく自然の中に生かされているのを感じます。人類の歴史は、感染症との戦いが繰り返されていますが、コロナ禍が早く収束し、次の世代が平和で豊かな生活をされるのを願うばかりです。

「毛利氏ゆかりの地で抱く夢」

藤井 尊弘(会員No.780)

まずは、医療の最前線で新型コロナウイルス感染症に立ち向かう医療従事者の皆様をはじめ、国民の健康と生活を支えてくださっています多くの関係者の皆様に、心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

さっそく本題に入るが、毛利氏ゆかりの地なら1度は抱く夢は、毛利サミットである。山口県、広島県、新潟県、神奈川県。いずれも毛利氏ゆかりの地である。ただ現状は、各県内でのつながりと友好都市の関係にとどまる。萩市と鎌倉市は友好都市。防府市と安芸高田市も友好都市である。山口市も含め毛利氏ゆかりの地ならばこれら全体を網羅する関係構築を夢見ることはないだろうか。

まだその夢はかなっていないが、山口七夕会の諸先輩方のご協力をいただき、すっかり埋もれてしまった毛利発祥の地、厚木で活動を開始した。昨年までで完了したことは、防府市毛利博物館、厚木市あつぎ郷土博物館を繋ぎきった。目標は、2つの市の友好都市だが、まずは歴史交流ということでは、上記の可能性を最大限に生かしたいと考えている。本年は、厚木市から年明けに学芸員が毛利氏の学習のため毛利博物館に向かう予定だったが、コロナ禍にて延期している。そこでこの1年は活動範囲が制限されるため、主にアイデア、企画を練る時間にとこととした。

1997年、大河ドラマにて毛利元就が放映された。厚木でも町おこしのきっかけにするため、大河ドラマの衣装をお借りして展示をするなど、いくつかの催しを開催したようである。しかしながら約3年でその活動は幕を閉じた。その最大の理由は、厚木に毛利氏に関するものがほぼ皆無のため、活動を継続させることが厳しかったようである。皆無の理由は、大江姓毛利氏の祖は毛利季光(すえみつ)だが、宝治合戦(別名:三浦氏の乱)にてその妻の実家が三浦氏だったことから三浦氏側についたため、毛利氏親子が討死したことにある。そのため毛利氏に関する調査をするが、当時の遺品などを確認することも困難な状況に至っている。そこで今回ご協力をお願いをしたのが、毛利博物館となるわけだ。博物館同士がつながれば双方にもそれぞれの情報が伝わりとともに、新しい発見とチャンス、チャレンジへと道を作ることが可能となる。ましてや両市民にその歴史の奥深さを理解していただくことも、これまで以上に可能だ。将来日本が観光立国を目指し、さらに新しい技術を使って文化を表現することを考えるならば、博物館のもつ可能性はまだ未知数ではないだろうか。

今年は、Facebookの記載を4月から開始した。題名を『厚木毛利氏プロジェクト』としている。

<https://www.facebook.com/morinosyo.atsugi/>

ホームページも作成中で、年内完成で進めている。ネット上での情報発信を二重三重とより太くするためだ。

<https://morinosyo-atsugi-web.jimdosite.com>

これらは、来年より放映される大河ドラマ『鎌倉殿の13人』に合わせ、まずは登場予定の大江廣元。さらに厚木市と縁深き毛利氏の内容を中心に展開する。ドラマの最後は、承久の乱、または宝治合戦が想定されるが、『吾妻鏡』に従って歴史はひも解かれると思われる。終盤にて大江廣元と共に毛利季光の登場も期待したい。

また市内では、山口県人会が全面的にバックアップしてくださることも重ねてお伝えしたい。

最後にドラマを通して市民がまた山口と縁ある方々が、ここ厚木が毛利氏発祥の地であることに気づいてくだされば、活動の意義があり本望である。ドラマは活動の通過点にすぎませんが、良い意味でより市民に浸透し、今後の活動にご協力をいただけることを願ってやみません。

現在はまだまだ小さな活動ですが、数年後に大きく裾野を広げることを誓って今回のご報告とさせていただきます。



「 功労者表彰 」

山口市の魅力を広く発信し、応援し、発展に尽くしてきた山口七夕会。その七夕会の二代目会長として、2009年から2021年までの12年間、会の運営の陣頭に立ってこられた八木重二郎様が、この度山口市への功労者として表彰されました。

七夕会年次総会の場で、山口市の渡辺純忠市長名の表彰状が、秋草新会長より授与されましたのでここに表彰状の文面とともにご報告いたします。

八木様、長きに渡り会長職をお務めいただき、誠に有難うございました。今後は七夕会顧問として、大所高所よりご指導を宜しくお願い申し上げます。



表彰状

八木重二郎様

あなたは多年にわたり
山口七夕会会長として
ふるさと山口市の魅力を
広く発信し本市の発展に
尽くされました
その功績は誠に顕著であり
ます
よつてここに表彰します

令和三年十月九日

山口市長 渡辺純忠

< 八木重二郎様の受賞御礼ご挨拶より >

この度の受賞は大変嬉しく、名誉であります。しかしながら、多少面映ゆくもあります。というのも、本日の表彰は、類まれなるエネルギーな行動力と、旺盛な社会奉仕精神で、私の会長時代の大半を支えてくれた故山縣正彦前幹事長の存在によるところが大きいからです。

会長として会員拡大や交流会の運営に努めて参りましたが、もっぱら巨人山縣の肩に乗り、久永先輩や石田元副会長をはじめとする役員の皆様に支えられてきた12年間であり、会員の皆様のアドバイスのお陰で本日の表彰があると思っております。皆様に心より感謝申し上げます。

「令和3年度・新任山口七夕ふるさと大使の皆さん(令和3年8月1日委嘱)」

| 氏名 | 委嘱基準 |
|---------------------|-----------|
| 秋草 史幸 (あきくさ ふみゆき) 様 | 会長として委嘱 |
| 柳井 章雄 (やない あきお) 様 | 平成24年入会 |
| 八木 良子 (やぎ りょうこ) 様 | 平成24年入会 |
| 岡本 暁彦 (おかもと あきひこ) 様 | 平成24年入会 |
| 岡崎 龍也 (おかざき たつや) 様 | 本部役員として委嘱 |



秋草さん



柳井さん



岡本さん



岡崎さん

< 山口七夕ふるさと便に関するご報告 >

ふるさと山口市から遠く離れた山口七夕会会員の多くは、コロナ禍にあって、愛する山口市に帰ることもままなりません。山口市の会員には、遠くに住む大切なご家族やご友人に会えずにいる方がたくさんいらっしゃると思います。

そんな皆さんの中にあって、特に寂しい思いをされているであろう学生さんに、懐かしいふるさと山口の味を届けちゃげようと、山口七夕ふるさと便企画を実施しました。

原資は山口七夕ふるさと大使の関周さんからの寄付金ですが、山口市役所ふるさと産業振興課の皆様や「特選品ショップやまぐちさん」には、企画実現に向けて大変なご協力、ご配慮をいただきました。

今回は、次の基準を全て満たす山口市在住会員 A さんの甥御さん(千葉在住)に山口市の产品をお届けしましたが、本部では若手会員の参画や活性化を令和3年度事業計画の柱のひとつに掲げており、今後とも今回のような企画や学生さんや若手会員に参加していただけるイベントを検討して参ります。ご案内の際には、会員各位のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

- ①山口市出身(=山口市にある小中高のいずれかを卒業)の学生さん。
- ②25歳以下の現役の学生さん(高校、短大、大学、大学院、専門学校等に在籍)。
- ③首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城)在住の学生さん。

< 新任評議員ご挨拶 >

【申神正子 評議員・ふるさと山口本部長】



この度、山口七夕会ふるさと山口本部長を拝命しました申神正子でございます。

私は、生まれ育ちは萩市ですが、その期間よりも長くこの山口市で生活することとなりました。また息子はこの山口市が故郷となります。この山口市を応援し、山口市を故郷として想う皆様方との架け橋となり、さらに山口市の発展の一助となりますように七夕会の活動を盛り上げて行きたいという思いから、七夕会ふるさと山口本部長に立候補し、その後、瀬川前本部長からのご信任のご発信を受け、謹んで本部長職をお受けいたしました。このような大役をおおせつかり、誠に恐縮です。微力ではございますが、ふるさと山口市を盛り上げていくために納得のいく実績をあげるべく、日々邁進して参る所存でございます。まだまだご不便をおかけすることもあるかと存じますが、精一杯努力して参りますので、より一層のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【藤井謙志さん 評議員・本部本部長代行】



このたび、山口七夕会の評議員を拝命しました富士フィルムビジネスイノベーション(旧富士ゼロックス)の藤井謙志と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は昭和 36 年(1961 年)生まれ、出身は山口県周南市(旧徳山市)、徳山高校卒になります。山口市には弊社子会社の社長として約 4 年間の勤務の中で山口県経営者協会、山口経済同友会、山口商工会議所、山口ロータリー、山口ゴルフクラブの皆さま方と親しくお付き合いさせて頂き、東京へ異動となった今でもご厚誼を賜っております。山口市の思い出は楽しいものばかりで本当に懐かしく思い起こされます。これまで山口七夕会では、副幹事長としてお役目を果たして参りましたが、これから評議員として会の隆盛を通じた山口市の発展のため、微力を尽くして参りたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【山下大輔さん 評議員・ふるさと山口本部事務局長】



新評議員を拝命いたしました、ふるさと山口本部事務局長の山下大輔です。どうぞよろしくお願いいたします。

私が七夕会に入会したのは、10年と少し前、ふるさと山口市を離れ、東京の大学に在学中のことでした。当時は、慣れない新生活に望郷の念やみがたく、中也の詩集を初めて手にしたような頃でしたので、七夕会では同郷の皆様との貴重なご縁をいただき、ありがたく思いましたことを覚えています。その後、山口県庁に奉職の運びとなり帰郷いたしました。引続きふるさと山口本部会員として、また事務局の会計職として及ばずながら会のお手伝いをさせていただいておりました。この度、事務局長という身に余る大役をいただき、併せて新評議員を拝命した次第です。若輩者ではございますが、何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

「 役員一覧(令和3年10月9日付) 」

< 会長・副会長・評議員・監査役・顧問 >

| 役職 | 氏名 | 担当 |
|---------|------|--------------------|
| 会長 | 秋草史幸 | 代表、総会・評議員会議長 |
| 副会長・評議員 | 渡邊史信 | 会長補佐 兼 会長代行 |
| 副会長・評議員 | 奥原 保 | 会長補佐 |
| 副会長・評議員 | 梶山俊哉 | 会長補佐 兼 本部長 |
| 副会長・評議員 | 申神正子 | ふるさと山口本部本部長 |
| 評議員 | 大田 宗 | 会計 |
| 評議員 | 吉松 勇 | ふるさと山口本部事務局(前事務局長) |
| 評議員 | 藤井謙志 | 本部長代行 |
| 評議員 | 山下大輔 | ふるさと山口本部事務局長 |

| | |
|----|-----------------|
| 顧問 | 石田順康 |
| 顧問 | 山本和生(在山市) |
| 顧問 | 山口県東京事務所長(繁永俊之) |
| 顧問 | 八木重二郎 |

| | |
|-----|------|
| 監査役 | 大枝幹夫 |
| 監査役 | 竹重高志 |

<本部役員>

| 本部役職 | 氏名 | 役割 |
|-------|----------|-------------------|
| 本部長 | 梶山俊哉(再掲) | 会務統括 |
| 本部長代行 | 藤井謙志(再掲) | 本部長代行 |
| 副本部長 | 武内衛子 | 本部長補佐 |
| 副本部長 | 岡本達也 | 本部長補佐 |
| 幹事長 | 山根和也 | 幹事長 |
| 副幹事長 | 西村弘文 | 幹事長補佐 |
| 副幹事長 | 村中正司 | 関西常駐 |
| 幹事 | 大田 宗(再掲) | 会計・経理・予算・決算・出納 |
| 幹事 | 引頭和江 | 幹事長補佐 |
| 幹事 | 田中美旋律 | イベント企画 |
| 幹事 | 田村廣修 | 本部長補佐・七夕会ホームページ管理 |
| 幹事 | 久家菊美 | 本部長補佐 |
| 幹事 | 小野美穂子 | 本部長補佐 |
| 幹事 | 藤村幸絵 | 広報 |
| 幹事 | 関 周 | 広報・イベント企画 |
| 幹事 | 岡崎龍也 | イベント企画 |

<ふるさと山口本部役員>

| 本部役職 | 氏名 | ふるさと山口本部役職 |
|---------|----------|------------|
| 副会長・評議員 | 申神正子(再掲) | 本部長 |
| | 庄栄一郎 | 副本部長 |
| | 松西照美 | 副本部長 |
| 評議員 | 吉松 勇(再掲) | 事務局 |
| 評議員 | 山下大輔(再掲) | 事務局長 |
| | 瀧野文彦 | 事務局長補佐 |
| | 中野邦夫 | 会計 |
| | 伊藤満宏 | 本部長補佐 |
| | 関 和貴 | 事務局・楽農部会長 |
| | 嘉瀬 修 | 事務局・日本酒部会長 |
| | 坂本哲也 | 事務局・音楽部会長 |
| | 村田常雄 | 事務局 |
| | 仙田達夫 | 事務局 |
| | 吉原真也 | 事務局 |
| | 杉本理恵子 | 事務局 |
| | 柴田尊明 | 事務局 |
| | 原田茂樹 | 監事 |
| | 国光文夫 | 監事 |
| | 瀬川英顕 | ふるさと山口本部顧問 |
| | 吉田正治 | ふるさと山口本部顧問 |
| | 吉田充宏 | ふるさと山口本部顧問 |
| | 山本和生(再掲) | 山口七夕会顧問 |
| | 山下憲治 | アドバイザー |

< 表紙の言葉 >

コロナ禍のために各地で恒例かつ伝統的な諸行事がどんどん中止に追い込まれています。山口市内の各種イベント、8月のちょうちん祭りも例外ではありません。こうなってくると、少々大袈裟かも知れませんが、このままコロナが続けば、かろうじて継承されている地域の伝統文化までもが途絶えてしまう可能性が出てきたと言っても過言ではないでしょう。大切な伝統文化を守るためにも、一日も早く収束して欲しいものです。来年こそはちょうちんに、大勢の人に見守られながら火が灯りますよう・・・

会員番号 607 古谷眞之助

【編集後記】

今年の年次総会は、当初の予定より大幅に延期されたものの、直前に緊急事態宣言等も解除されたことから、無事開催することができました。インターネット画面を通じた交流も日常となりつつありますが、やはり会員が一堂に会しての総会は格別なものがあります。とはいえ、コロナ禍の第6波が押し寄せないとは限りません。今後の七夕会行事の運営方法について、様々な可能性を検討していく必要があると思います。

さて、山口市には伊藤和貴新市長様が、七夕会には秋草史幸新会長が就任されました。創立22年目を迎えた山口七夕会として、山口市との連携を更に強化し、山口市の発展に一層寄与できるよう、会員間の絆を強固なものとして活動して参りましょう。

編集長(山口七夕会副会長・本部長) 梶山俊哉

【事務局からのご案内】

- ◎転居されるご予約のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと七夕会通信や市報等の資料が届かなくなってしまう)
- ◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

★山口七夕会事務局(山口市企画経営課内)
〒753-8650 山口市亀山町2番1号
TEL 083-934-2746
kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

★本部
tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp